

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500031		
法人名	社会福祉法人みとし会		
事業所名	楽陽荘グループホームちーず		
所在地	香川県観音寺市柞田町甲1936番地		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町受理日	平成22年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790500031&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所ではケアプラン委員会、身体拘束ゼロ推進委員会、食べもの委員会、介護事故防止委員会、感染症委員会、介護委員会の6つの委員会を設けている。そして、全職員が何らかの委員会に加わってサービス内容を高めるための話し合いを月に1回行って、サービスの向上に努めている。 ・利用者の誕生日には本人、家族共相談して、利用者がこれまで住んでいた地域、馴染みのある場所等を訪問して知人などとふれ合う機会を持てるように配慮し、対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所は、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目的に開設され、利用者の意思及び人格を尊重し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、利用者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むための支援が行われている。同時に職員は6つある委員会のいずれかに所属し、その内容を研修会、運営推進委員会にも報告して、資質の向上と同時に家族や利用者の安全・安心につながる努力がなされている。問題点は管理者と職員が検討し改善に努めている。今後も全員参加の姿勢を大切に更なる活躍に期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

楽陽荘グループホームちーず(壱丁目)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいたサービスを提供している。 ・いつも笑顔で仲よく生活しています。 ・お一人おひとりの自立をお手伝いしています。	職員は理念を申し送り時に復唱して共有している。また利用者が安心して暮らせるよう地域との交流に努め、「笑顔と自立」のために努力がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、回覧板等で地域の行事を知る事が出来ている。秋の大祭には太鼓台や獅子舞の訪問があり、地域の懐かしい人々との交流が出来ている。	地域では自治会に加入しており、地域の情報の共有ができています。自治会のゴミだしや秋祭りの太鼓台・獅子舞の訪問、昔懐かしいチンドン屋、地元中学校からのワークキャンプ、ボランティア訪問など地域との交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から、家族に認知症の症状がみられて困っている。どのように接すればよいかとか、介護予防の方法についての相談を受けて、認知症の人への理解や支援の方法について、相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催出来ている。会議では利用者の状況、行事・外出支援・クラブ活動等サービス提供の状況の報告を行い、会議で出た意見を参考にサービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族代表、自治会長、民生委員会、高齢介護課課長、地域包括センター、クリニック会長、理事長等の参加のもと、出された意見はサービスの向上につなげるよう努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度は市の担当者にケアサービスの取り組み状況などを報告・相談して指導を受けている。	行政の担当者と、家族の意向・利用者の変化や取り組み状況について早めに報告や相談をし、アドバイスを受けるなど、連携がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会が中心となって、施設内研修などで全職員に身体拘束廃止の方針を周知徹底している。また、目標を決めて3カ月に1度づつ目標の見直しを行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修などの機会を通じ、身体拘束ゼロ推進委員会が中心となって職員全員に方針を周知徹底し、チームで身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護委員会が中心となり、『虐待の事例集』をテキストにして研修を行って虐待について学び、気付かないうちに虐待を行っている場合も含めて虐待防止に努めている。		

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいない事もあって、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームを利用するにあたり利用者や家族が抱えている様々な疑問点、不安な気持ちを和らげる様な丁寧な説明を行っている。解約または改定などの際は家族に十分な説明を行って理解・納得して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置して、利用者や家族の苦情要望が出やすいように配慮している。出された意見、苦情要望等については、全職員で改善の方向に向けて話し合いを行い、結果を利用者や家族に説明すると共に運営に反映させている。	苦情受付箱を設置するとともに、面接時に対話の中から聞きだすよう努めている。意見、苦情は全職員で話し合い、運営面での資質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員を対象に月に1度スタッフ会議を開いて、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	6つの委員会がそれぞれ中心になり問題提起をしたり、スタッフ会議で職員の意見や要望を聞き、常に前向きに運営に反映させる努力がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員の受験資格の出来た職員には受験するように働きかけると共に、施設内研修を行う等の職場環境を整備している。また、資格取得者には資格手当を支給する等努力に応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は、各委員会が中心となって年間計画を立てると共に講師を務め、職員全員が研修を受けている。施設外研修は職員の力量を考慮しながら参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に入会して機関誌等で学んでいる。また、地域の勉強会に参加して他の病院や事業所と交流する機会を持って質の向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で本人の話を聴きながら、本人が今困っている事、不安に感じている内容、私達の事業所への希望要望等を聞いて、どのような支援をしていけばよいのかを職員間で話し合っ本人とのよい関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、今どんな事に困っているか、私達の事業所にどんな事を要望しているか等の家族の話を傾聴している。そして、これまでの苦労話を聴いて家族の気持ちを理解しながら、暫定的介護計画に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた時に、当事業所へ入居できる要件を知らせている。もし、入居の要件に該当されない方場合は他の利用できるサービスの内容を知らせて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯・掃除等の家事を利用者と一緒に行いながら、感謝や労いの言葉を掛けて共に過ごしている。また、縫い物が出来る利用者には布巾を縫ったり、ボタンつけをもらう事で満足感を味わえるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の利用者と家族との関係を理解して、それぞれの思いを大切にしながら支援している。また、家族会を結成して家族同士のつながりが築けてきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた友人や知人が再度訪問しやすいような雰囲気づくりを行っている。また本人がこれまで住んでいた馴染みの場所へは、お誕生企画として個別に同行するような支援を行っている。	職員は利用者と常にコミュニケーションを取り、必要に応じ家族の協力も得ながら、一人ひとりの性格に配慮し、馴染の生活が送れる支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気持ちを考慮して、気の合う利用者同士が並べるように座る席などに気を付けている。一人で過ごす事を望まれている時は、職員が部屋を訪問するなどして利用者が孤立しないように気を配っている。		

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どの利用者も地域に住まわれている方なので、契約が終了しても家族と顔を合わせる機会がよくあり、今の様子を伺っている。また、入院による契約終了の場合、必要に応じて今後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時に本人や家族の意向を十分に聞いて介護サービス計画書を作成している。アセスメント時には、包括的自立支援プログラムに加えてセンター方式の『私の姿シート』を活用して、利用者や家族の思いを明確にしている。	利用者の今までの生活歴や希望、不安等について把握するよう努め、表出出来ない利用者もその背景について、家族からも意見や要望を聞いている。利用者や家族の思いを共通理解するよう努力がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	作業や活動を一緒に行いながら、利用者何気なく話されている内容に耳を傾けたり、さりげなく声を掛けて生活歴やこれまでの暮らし方を把握して、介護サービス計画に盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を考慮すると共に、本人の趣味や特技、興味を持たれている内容を理解して、その人らしく楽な毎日を過ごして頂けるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書のサービス内容が実行出来ているか、『介護サービス計画検証表』で毎日検証を行っている。そして、月に1回モニタリングを行い次回の介護サービス計画に生かしている。	利用者・家族・職員から十分に情報が得られるよう話し合い、その人らしく暮らせるための計画となるよう、本人、家族に説明、同意を得て介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス計画書のサービス内容を実行した事や毎日一緒に過ごしながら気付いた点、利用者が工夫されている事等を個別に記録している。またその内容を職員間で共有しながら次回の介護サービス計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて季節の野菜と一緒に作り、収穫後食材として利用している。		

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望する利用者に、市の図書館の方へ同行して図書の借入れを行い、地域資源の活用が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望している病院の医師がかかりつけ医となっている。受診通院については、利用契約時に説明して同意を得ている。家族の希望で受診の同行も行ったり、歯科医の訪問診療を受けている。	利用時に本人や家族から了承を得たかかりつけ医にお願いしており、訪問歯科診療や受診通院に職員が同行するなど適切な医療支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に関わる事で気づいた心身の変化等を協力医療機関の看護師に報告相談する事で、利用者の日常の健康管理が出来ている。必要時、受診等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院に際しては、利用契約時に説明を行って、本人が安心して入院生活を送る事ができるように本人の介護に関する必要な情報を医療機関へ提供する事についての同意を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に、『重度化した場合における対応の方針』を基に事業所で出来る内容を十分に説明を行っている。そして、本人が重度化した場合の介護及び治療についての意向を本人及び家族に確認すると共に同意を得ており、体調が変化した時はその都度確認している。また必要時、地域関係者からも支援を得ている。	重度化、終末期については、入居に事業所の方針を説明し、家族の同意を得ている。	意向が変化することも考慮し、本人、家族、かかりつけ医との話し合いに加え、職員の連携統一をはかるとともに、十分に意見交換をし、具体的方策を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事故防止委員会が中心となり、利用者の急変時や転倒転落事故時の対応方法についてのマニュアルを作成すると共に、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が参加して火災や地震等を想定しての避難訓練を、年に4回程度実施している。防火管理者講習会に参加して地域との協力体制を築くことの重要性を学び、協力体制を築きつつある。	全職員参加の避難訓練を年間4回実施している。地域との協力体制については、その重要性を認識している。	夜間の災害対策として、搬送避難方法や対応の仕方など、地域の方々の協力体制や訓練参加等に工夫を期待したい。

楽陽荘グループホームちーず(壱丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『プライバシー保護の取り組みに関するマニュアル』を基に研修を行って、利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。	利用者個々の特性を考慮して、あくまで自尊心を損ねないように、言葉かけに配慮し、申し送り時には確認しあうなど、利用者の人格尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者支援する時には具体的に声を掛けて意志の確認を行っている。また、言葉で表現する事が難しい利用者の場合、顔の表情や目の動き、頷き、手の動き等を見て自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候等を話し合いながら、利用者一人ひとりが今日をどのように過ごしたいか自分の気持ちを話せる環境を作り、本人の希望にそって個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理髪店の協力を得て、定期的に訪問理容を受けている。また、その日に着る洋服や入浴後に着替える服を利用者と一緒に選んでその人らしさがみられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせた食事形態が用意できている。食事中は、利用者の傍で食事をしながら会話を楽しみ、良い雰囲気の中で食事が出来ている。また、一人ひとりの利用者の力に応じて無理のない範囲で調理・片付けを一緒に行っている。	「食べもの委員会」が中心となり、利用者のその時の状態に応じた食事形態が用意されている。明るい雰囲気の下に食事がなされ、調理・準備、後片付けも利用者と一緒に楽しく行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士の作成した献立を基に利用者の意見を聞いて献立を作成している。食事・水分が摂取出来にくい利用者の場合、表に記録して必要な水分が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声を掛けて義歯洗浄を含めてその人に合った方法で清潔を保っている。本人が自分で出来にくい部分を職員が支援している。		

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズムを、『排泄記録表』で把握して紙パンツ、パット等を使用しない、排泄への自立支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握して、さりげなく声かけ、誘導が行なわれている。紙パンツ等を使用しない排泄への自立支援に向けて職員の意味統一が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	『排便チェック表』で、排便状態の把握が出来ている。便秘対策として繊維質が多く含まれている食材を使用したり、カスピ海ヨーグルトを食べていただいたり、毎朝の体操や腹部マッサージを行って自然排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴に加えて、夜間入浴等本人の希望する時間帯で、また毎日でも入浴を望まれる利用者の場合、個別に入浴を楽しめるように支援している。	最低でも週3回の入浴支援が行われているが、利用者の希望により、曜日や時間帯に関係なく入浴を楽しめるよう、個別支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促して生活リズムを整えるように支援している。が、休息の必要があると思われる利用者の場合個々に支援している。また、寝付きにくい利用者の場合、夜間入浴や足浴等利用者自身が好む方法で工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者が服薬している薬の名前、用法用量、効能などの理解が出来ている。そして、服薬支援と服薬後の利用者の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を知ってその利用者の出来ることは何か、得意分野を引き出せるような支援を行っている。そして、ホームでの自分の役割を持って頂き、楽しみのある毎日を過ごす事が出来るような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のスーパーへ食材の買い物に行った時や散歩時に、地域の人達から言葉を掛けられる等の協力を得ている。家族からは自宅への外出や買い物同行等の協力を得ている。また、月に1度は公用車で季節の花などを見に出掛け気分転換を図っている。	月に1度は車で外出し、季節を体感してもらえるよう支援している。また、家族の協力も得ている。	

楽陽荘グループホームちーず(壱丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人とも充分相談を行って金銭の所持に対する支援は、今の所行っていない。利用者が購入したい商品が出来た時は、家族に相談して家族が買い物の同行の協力をされたり、職員が同行して買い物支援を行う場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機が設置されており、家族や知人と電話で話が出来る環境がある。遠方の子供達と電話で話をしたり、手紙のやり取りをして近況を伝える事が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には畳の部分とテーブルコーナーがある。冬には居間にコタツを置いたり、テーブルの配置など利用者と相談して、利用者が寛ぐ事が出来る場所で思うように過ごせる工夫をしている。ホーム内、トイレは臭いが出ないように防臭に気を配っている。	共有空間は冬にはホームコタツを置き利用者が寛ぐなど工夫がなされている。また、テレビの音量、温度調整、明るさは居心地良く、居室も清潔に整頓され、季節の花を生けたり、作品が展示されるなど環境に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に備え付けられた椅子に座って気の合う利用者が話をしている場面では、職員も話しの輪に加わって人間関係を深めている。また、利用者同士がお互いの部屋を気軽に訪問できるような支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がこれまで使用してきた馴染みの家具等を持参してもらって、本人家族と相談しながら配置できている。また、思い出の写真等を飾る等、個々の利用者が居心地よく過ごせるような工夫を行っている。	家庭でこれまで使い慣れた品物や、好みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる配慮がなされている。思い出の写真等を飾るなど、個々の工夫がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者の「どんなことが、どの位できるか」「なにがわかっているか」等という事を把握している。また、廊下、トイレ、浴室、脱衣室に手すりを設置して、自立に向けての支援を行っている。		

楽陽荘グループホームちーず(式丁目)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいたサービスを提供している。 ・いつも笑顔で仲よく生活しています。 ・お一人おひとりの自立をお手伝いしています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、回覧板等で地域の行事を知る事が出来ている。秋の大祭には太鼓台や獅子舞の訪問があり、地域の懐かしい人々との交流が出来ている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から、家族に認知症の症状がみられて困っている。どのように接すればよいかとか、介護予防の方法についての相談を受けて、認知症の人への理解や支援の方法について、相談に乗っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催できている。会議では利用者の状況、行事・外出支援・クラブ活動等サービス提供の状況の報告を行い、会議に出た意見を参考にサービスの向上に努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度は市の担当者にケアサービスの取組状況等を報告・相談して指導を受けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会が中心となつて、施設内研修等で全職員に身体拘束廃止の方針を周知徹底している。また、目標を決めて3カ月に1度ずつ目標の見直しを行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護委員会が中心となり、『虐待の事例集』をテキストにして研修を行って虐待について学び、気付かないうちに虐待を行っている場合も含めて虐待防止に努めている。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいない事もあって、学ぶ機会を持っていない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームを利用するにあたり利用者や家族が抱えている様々な疑問点、不安な気持ちを和らげる様な丁寧な説明を行っている。解約または改定などの際は家族に十分な説明を行って理解・納得して同意を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置して、利用者や家族の苦情要望が出やすいように配慮している。出された意見、苦情要望等については、全職員で改善の方向に向けて話し合いを行い、結果を利用者や家族に説明すると共に運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員を対象に月に1度スタッフ会義を開いて、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員の受験資格のある職員には受験するように働きかけると共に、施設内研修を行う等の職場環境を整備している。また、資格取得者には資格手当を支給する等、努力に応えている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は、各委員会が中心となって年間計画を立てると共に講師を務め、全職員が研修を受けている。施設外研修は職員の力量を考慮しながら、参加を勧めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に入会して機関誌等で学んでいる。また、地域の勉強会に参加して他の病院や事業所と交流する機会を持って質の向上への取り組みを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で本人の話を聴きながら、本人が今困っている事、不安に感じている内容、私達の事業所への希望要望等を聞いて、どのような支援をしていけばよいのかを職員間で話し合っって本人との良い関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、今どんな事に困っているか、私達の事業所にどんな事を要望しているか等の家族の話を傾聴している。そして、これまでの苦労話を聴いて家族の気持ちを理解しながら、暫定的介護計画に反映している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた時に、当事業所へ入居できる要件を知らせている。もし、入居の要件に該当されない方場合は他の利用できるサービスの内容を知らせて対応している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯・掃除等の家事を利用者と一緒に行いながら、感謝や労いの言葉を掛けて共に過ごしている。また、縫い物が出来る利用者には布巾を縫ったり、ボタンつけをしてもらう事で満足感を味わえるような支援をしている。
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の利用者と家族との関係を理解して、それぞれの思いを大切にしながら支援している。また、家族会を結成して家族同士のつながりが築けてきている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた友人や知人が再度訪問しやすいような雰囲気作りを行っている。また、本人がこれまで住んでいた馴染みの場所へは、お誕生企画として個別に同行するような支援を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気持ちを考慮して、気の合う利用者同士が並べるように座る席などに気を付けている。一人で過ごす事を望まれている時は、職員が部屋を訪問する等して、利用者が孤立しないように気を配っている。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どの利用者も地域に住まわれている方なので、契約が終了しても家族と顔をあわせる機会がよくあり、利用者の今の様子を伺っている。また、入院による契約終了の場合、必要に応じて今後の相談や支援に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護契約作成時に、本人や家族の意向を十分に聞いて介護サービス計画書を作成している。アセスメント時には、包括的自立支援プログラムに加えて、センター方式の『私の姿シート』を活用して利用者や家族の思いを明確にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	作業や活動と一緒にしながら、利用者が何気なく話されている内容に耳を傾けたり、さりげなく声を掛けて生活歴やこれまでの暮らし方を把握して、介護サービス計画に盛り込んでいる。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を考慮すると共に、本人の趣味や特技、興味を持たれている内容を理解して、その人らしく楽な毎日を過ごして頂けるように支援している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書のサービス内容が実行できているか、『介護サービス計画検証表』で毎日検証を行っている。そして、月に1回モニタリングを行い次回の介護サービス計画に生かしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス計画書のサービス内容を実行した事や毎日一緒に過ごしながら気付いた点、利用者が工夫されている事等を個別に記録している。またその内容を職員間で共有しながら次回の介護サービス計画に取り入れている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて季節の野菜と一緒に作り、収穫後食材として利用している。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望する利用者に、市の図書館の方へ同行して図書の借り入れを行い、地域資源の活用が出来ている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望している病院の医師がかかりつけ医となっている。受診通院については、利用契約時に説明して同意を得ている。家族の希望で受診の同行を行ったり、歯科医の訪問診療を受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に関わることで気づいた心身の変化等を協力医療機関の看護師に報告相談する事で、利用者の日常の健康管理が出来ている。必要時、受診等に繋げている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、利用契約時に説明を行って、本人が安心して入院生活を送る事が出来るように本人の介護に関する必要な情報を医療機関へ提供する事についての同意を得ている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に、『重度化した場合における対応の方針を』基に事業所で出来る内容を十分に説明を行っている。そして、本人が重度化した場合の介護及び治療についての意向を本人及び家族に確認すると共に同意を得ており、体調が変化した時はその都度確認している。また必要時、地域の関係者からも支援を得ている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事故防止委員会が中心となり、利用者の急変時や転倒転落事故時の対応方法についてのマニュアルを作成すると共に、研修を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が参加して火災や地震等を想定した避難訓練を、年に4回程度実施している。防火管理講習会に参加して地域との協力体制を築くことの重要性を学び、協力体制を築きつつある。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『プライバシー保護の取り組みに関するマニュアル』を基に研修を行って、利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者支援する時には具体的に声を掛けて意志の確認を行っている。また、言葉で表現する事が難しい利用者の場合、顔の表情や目の動き、頷き、手の動き等を見て自己決定できる場面を作っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候等を話し合いながら、利用者一人ひとりが今日をどのように過ごしたいか自分の気持ちを話せる環境を作り、本人の希望にそって個別に支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理髪店の協力を得て、定期的に訪問理容を受けている。また、その日に着る洋服や入浴後に着替える服を利用者と一緒に選んでその人らしさがみられるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせた食事形態が用意できている。食事中は、利用者の傍で食事をしながら会話を楽しみ、よい雰囲気の中で食事が出来ている。また、一人ひとりの利用者の力に応じて無理のない範囲で調理・片付けを一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士が作成した献立を基に利用者の意見を聞いて献立を作成している。食事・水分が摂取できにくい利用者の場合、表に記録して必要な栄養・水分が確保出来るように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声を掛けて義歯洗浄を含めてその利用者に応じた方法で清潔を保っている。本人が自分で出来ない部分を職員が支援している。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズムを、『排泄記録表』で把握して紙パンツ、パット等を使用しない、排泄への自立支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	『排便チェック表』で、排便状態の把握が出来ている。便秘対策として、繊維質が多く含まれている食材を使用したり、カスピ海ヨーグルトを食べて頂いたり、毎朝の体操や腹部マッサージを行って自然排便に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴に加えて、夜間入浴等本人の希望する時間帯で、また毎日でも入浴を望まれる利用者の場合、個別に入浴を楽しめるように支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促して生活リズムを整えるように支援している。が、休息の必要があると思われる利用者の場合個々に支援している。また、寝つきにくい利用者の場合、夜間入浴や足浴等利用者自身が好む方法を工夫している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者が服薬している薬の名前、用法用量、効能等の理解が出来ている。そして、服薬支援と服薬後の利用者の症状の変化の確認に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を知ってその利用者の出来る事は何か、得意分野を引き出せるような支援を行っている。そして、ホームでの自分の役割を持って頂き、楽しみのある毎日を過ごす事が出来るような支援を行っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のスーパーへ食材の買い物へ行った時や散歩時に、地域の人達から言葉を掛けられる等の協力を得ている。家族からは自宅への外出や買い物の同行等の協力を得ている。また1日に1度は花や野菜の水遣りに出掛けたり、月に1度は公用車で季節の花などを見に出掛け気分転換を図っている。

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人とも充分に相談を行って金銭の所持に対する支援は、今の所行ってはいない。利用者が購入したい商品が出来た時は、家族に相談して家族が買い物の同行の協力をされたり、職員が同行して買い物支援を行う場合もある。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機が設置されており、家族や知人と電話で話が出来る環境がある。遠方の子供達と電話で話したり、手紙のやり取りをして近況を伝える事が出来るよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は畳の部分とテーブルコーナーがある。冬には居間にコタツを置いたり、テーブルの配置等、利用者と相談している。寛ぎやすい場所で思うような過ごし方ができる工夫をしている。ホーム内、トイレは臭いが出ないように防臭に気を配っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に備え付けられた椅子に座って気の合う利用者が話している場面では、職員も話しの輪に加わって人間関係を深めている。また、利用者同士がお互いの部屋を気軽に訪問できるような支援を行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がこれまで使用してきた馴染みの家具を持参してもらって、本人、家族と相談しながら配置出来ている。また、思い出の写真を飾る等、個々の利用者が居心地よく過ごせるような工夫を行っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者の「どんなことが、どの位できるか」「なにがわかっているか」等という事を把握している。また、廊下、トイレ、浴室、脱衣室に手すりを設置して、自立に向けての支援を行っている。